



第 24 号

1998年 3月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



土手状遺構と遺物出土状況(南から)

弥生時代の“波止場”の跡か

— 倉敷市・上東遺跡 —

岡山県古代吉備文化財センターでは、県道箕島高松線改良に伴う発掘調査を平成9年4月から行っています。

上東遺跡は、昭和の初めから弥生時代の土器が多く出土し、弥生時代後期の上東式土器の標式遺跡として全国的にも著名です。昭和47・48年と同52年に新幹線、都市計画道路建設に伴い調査が行われた結果、遺跡は東西500mにわたっ

て広がっていたことが明らかとなりました。その当時においては今回の調査地は、海が入っていたと考えられていました。しかし、今回の調査で南北の遺跡の広がりを確認することにより、海ではないことがわかりました。そして、弥生時代の波止場ではないかと思われる土手状の遺構が認められたのです。

土手は、北東から南西方向に認められ、中央

部分から北東側は幅が広く、一方南西側は幅が狭くなっているのです。確認されている規模は、長さ45m、幅5～14m、高さ2mを超えるものです。当初この土手については、南側に認められた河道の護岸施設ではないかと考えていましたので、土手の裾部から河道にかけて掘り下げを進めていき、その過程で、多くの土器と木を検出したのです。この時点においては、これらの遺物は近くの集落が洪水により流されてきたと思われたのです。しかし、検出される土器の数が700個体を超え、その内容は完形品もしくはそれに近い状態で見出されています。木も自然の流木ではなく、横木を置き、さらにそれらを留めるように杭が打ち込まれていることが認められたことから、洪水によりもたらされたのではないことがわかりました。



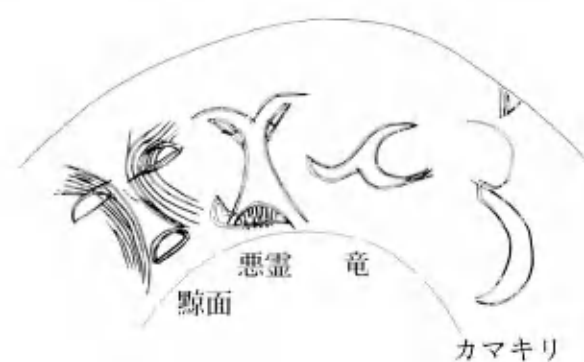
調査風景

さらに、土手本体においては北東側の東に幅を広げる部分と南西側の細くなる部分で、その構築内容が異なるのです。仮に、前者をⅠ工区、後者をⅡ工区とします。Ⅰ工区は粘土と粗朶(樹木の枝や細い幹、樹皮、葉っぱ)、Ⅱ工区が砂、粘土、粗朶を用いています。その構築の前後関係は、Ⅰ工区が完成した後にⅡ工区が構築されています。このⅡ工区の土手の下から「貨泉」が出土し、この層に伴う土器の時期は弥生時代後期前葉以降と考えています。土手の北西はまっすぐに延びますが、南東は湾曲気味に広がっています。また、旧2号線付近の工事において貝などが出ていることから、比較的近くまで海が入っていたことが知られています。

このようなことから、波止場状の部分は船着

場として使用されたものと思われます。この土手がこのような施設として考えられるのであれば、大量の土器の出土を再度検討し直さなければなりません。出土した土器の器種は、壺、鉢、甕が多く認められるのに対し、高杯が少ない傾向にあるようです。これまでの埋葬祭祀儀礼においては、これとは反対に高杯が多く認められます。このことから、これら大量の土器は出港の度に航海の安全を祈るため、海に手向けられたものと考えられるのではないのでしょうか。

この地点からは、図に示した弥生時代後期前葉の絵画文土器が出土しています。土器は、口径7.8cm、底径3.4cm、器高6.5cmを測る鉢形土器の完形品です。絵画文は、この表面に4種類の絵を4コマ漫画のように線刻しています。絵を図により左から右に見てゆくと、黥面、悪霊、竜、カマキリを描いたのではないかとされます。特に、黥面はまぶたを閉じた表現をし、まぶたにまで入れ墨を施しています。さらに、悪霊の絵には瞳と歯を表現しているのは、全国的にも例がないのです。この他の主要な出土遺物は、弧帯文を線刻した鉢で、文様構成が欠けることなく描かれています。(下澤公明)



絵画文土器(上は展開図)

前内池墳墓群・前内池古墳群の発掘調査

前内池墳墓群・古墳群は、赤磐郡熊山町可真下・稗田に所在する、石蓮寺山塊から南東に延びる丘陵上の遺跡です。現在、美作岡山道路建設に伴い、弥生墳墓などの遺構が広がる丘陵先端部を墳墓群、古墳が並ぶ北側の尾根部を古墳群として発掘調査を行いました。

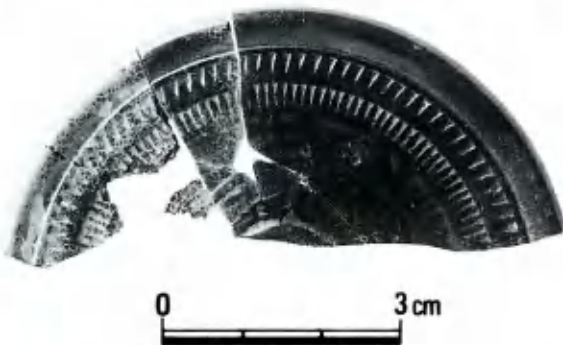


前内池墳墓群全景（左が北）

前内池墳墓群

墳墓群の南に延びる丘陵上では、弥生時代中期から後期にかけての竪穴住居や土壙墓および弥生時代後期の土器棺が検出されました。土壙墓からは木棺を押さえていた石が検出され、土器やガラス製の勾玉、水晶で作った切子玉などの副葬品が見つかりました。

西へ分岐している丘陵上では、2基の古墳と7基の箱式石棺や竪穴住居、土壙などが検出されました。2基の古墳は、ともに竪穴式石室ですが、墳丘はほとんど削られていて、石室もわずかに基底部の石が残るのみでした。このうち1基の床面からは、意図的に割った鏡（破鏡、



前内池墳墓群 竪穴式石室内出土の破鏡

直径約7.3 cm) や木棺をのせる台の石が20個出土しました。箱式石棺内には共通して拳大ほどの枕石が2つ並べられています。床面に割った埴輪を敷き詰めたり、刀や鉄鏃を副葬している石棺もありました。

墳墓群の北端部に位置する丘陵鞍部では、数十基におよぶ弥生時代後期の土器棺墓がまとめて検出されています。

前内池古墳群

墳墓群北側の尾根上にある4基（1～4号墳）の古墳は、いずれも正方形に近い方墳で、周りに溝（周溝）が巡らされていました。古墳の規模は、一辺が小さいもので約8 m、大きいものは15 mほどありました。大きい2基の古墳は、築造当時多くの埴輪が並べられていましたが、現在は墳丘の肩に基底部がいくつか残るのみで、ほとんどが割れて周溝の中に落ち込んでいました。埴輪の中には、円筒埴輪のほかに盾や人物を表した形象埴輪がありました。人物埴輪は、壺を持った右手部分（約15 cm）などが見つっています。主体部は、盗掘などで残りがよくありませんが、いずれも竪穴を掘り、小石や粘土を敷き詰めた上に木棺を納めていました。木棺の痕跡は残っていませんが、ほぼ南北を向くものと考えられます。南端の4号墳では墳丘の東辺にテラスを造り出し、高杯などの土器を供えた祭壇が確認されました。遺物としては、土器や埴輪のほかに主体部から直刀や管玉が、周溝などからは鉄製の鋤先や紡錘車（ぼうすいしや）が出土しています。（砂 泰将）



前内池古墳群出土の人物埴輪

センターの年間事業（平成9年度）

調査第一課

1997年度、調査第一課は2係22名により、埋蔵文化財の普及啓発、報告書の整理・刊行、発掘調査などの事業に対応しました。

普及啓発事業は、8月23日に市町村教育委員会の協力を得て「最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査概要の報告会」、平成10年2月13日には県下市町村を対象に「埋蔵文化財担当職員研修会」を開催しました。報告会は昭和63年度から開始され、今年で10回目、研修会は昭和61年度からの開始で、11回目を迎えています。なお、「少年少女考古教室」は11回をもって昨年度閉会いたしました。これらの事業を通して、埋蔵文化財に対する県民の理解の増進と保護思想の普及に努めてまいりました。

報告書の整理は、一係が一般県道箕島高松線改良（津寺三本木・一軒屋遺跡）、雇用促進住宅岡山宿舍建設（原尾島遺跡）、県営圃場整備（阿知境遺跡ほか）、一般県道別所下長田線雪寒（水別古墳群・水別遺跡）、二係が山陽自動車道建設（政所遺跡）を担当しました。この整理作業に14名の調査員があたりました。

報告書の刊行は、県立大学建設に伴う報告書「窪木遺跡2」、山陽自動車道建設に伴う報告書「津寺遺跡5」・「大岩遺跡ほか」、県立岡山工業高校実習棟改築に伴う報告書「伊福定国前遺跡」、県営矢掛町圃場整備事業に伴う「清水谷遺跡ほか」を実施しました。

発掘調査事業は、8頁一覧表の1～11遺跡を一係デスク担当4名（内1名は文化課本務）が主に対応しました。国、県関連の事業が8件、市町村の指導が3件であり、全県にわたっています。このうち、2ヵ月以上の発掘調査を実施したのは県営真備町圃場整備（阿知境遺跡ほか）、勝北町辺地対策事業西村西上線（西村1・2号墳）、岡山市津島グラウンド確認調査（津島遺跡）の3件であり、他は短期間の発掘・確認調査が中心になっています。とりわけ、津島遺跡は平成17年の国体主会場用地問題との関連から調査

成果が注目されています。また、情報面では当センターの紹介を中心にホームページを開設しました。

他に阪神・淡路大震災の復旧、復興事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査への派遣が終了しました。

《西村1・2号墳》

本古墳群は勝田郡勝北町西村に所在し、山形仙より南に高さを減じながら延びる丘陵上、海拔265m付近に並んで位置しています。現状では、墳丘の中央部に盗掘を受けた1号墳（円墳）、2号墳（方墳）の各1基が残っており、1号墳の石室内には「お地藏さん」が祀られていました。1号墳は直径10mを測る円墳であり、横穴式石室内には土師質の亀甲型陶棺の破片が少し残っていました。盗掘を受け、破壊されていたにもかかわらず、墳丘上には石室を囲むように6本の円筒埴輪が墳丘に沿って弧状に廻り、その間隔は65～105cmを測ります。

西村2号墳は方墳の可能性があり、内部主体は1号墳と異なる竪穴式石室が作られていました。両方の古墳とも出土遺物は非常に少ないのですが、埴輪、陶棺、須恵器などから6世紀後半頃に築造された墓で、この地に活躍した豪族が残した古墳群であることが判明しています。

（高畑知功）



西村2号墳 竪穴式石室（南から）

調査第二課

調査第二課が行いました平成9年度の発掘調査・報告書の作成事業は以下のとおりです。

第一係は百間川改修に伴う百間川米田遺跡の発掘調査、昨年から行っている三室川ダム建設に伴う大成山たたら遺跡群の発掘調査、第二係は都市計画道路万成国富線建設に伴う北方地藏遺跡の発掘調査、平成6年から3カ年にわたって久世町の県北流通センター建設に伴って発掘調査を行った旦山遺跡ほか、平成元年から4年間と今年度最終の発掘調査を行った立田排水機場および送水管建設に伴う政所・津寺遺跡、平成7年から今年度6月まで発掘調査を行った田益田中遺跡などの整理・報告書作成が主なものです。

百間川遺跡群の発掘調査は今年度で21年を終えることになりましたが、百間川米田遺跡ではいろいろな発見が相次ぎました。一つは先号で報告しました室町時代の橋の基礎部分の発見です。二つ目はその橋の上流30mほどの所で、同じ川の護岸施設の発見です。同じ川であっても時期は古代末（平安時代末）の護岸のようです。この護岸には直径10cm前後、長さ1.4～2.5mの長さの杭が幅2m以上、長さ20数mにびっしり打ち込み横木と組み合わせ、しがらみ状に作られ、川側は10数枚の筵、小枝、土を交互に積み重ねて築いていました。この下層からは木で作られた50cmほどの人形ひとがたが検出されました。人身御供の代わりなのでしょうが興味深い事実です。そして洪水か集中豪雨によってこの護岸は、少なくとも2回決壊しその補修を行っていることなども明らかになりました。さらにこの対岸の山側では、岩盤に沿うように杭を打ち込み堤防



百間川米田遺跡の護岸施設（南東から）

兼道路を造っていたようです。また橋のすぐ下流では、川に直交する石堤、杭列が見られ、ここからは「東大寺」の刻印のある瓦などが出土しており、これは橋を護るための施設なのか、船着場のような物なのか今後検討して行かねばなりません。来年度はこの橋の基礎部を解体していこうと考えています。

大成山たたら遺跡群は、昨年度に引き続きこの地で最後まで操業していたと思われる高殿たたら跡1カ所とそれに関連する周辺の調査と、別の高殿たたら跡2カ所の調査、縄文時代の遺跡が想定されていたところの確認調査を12月まで行いすべての調査を終了しました。近世末から近代にかけての高殿からは、絵図等で見られる砂鉄置き場、炭置き場など高殿内部の配置についても明らかになりました。大船、小船の下部に造られた施設は、畳1枚近くの大きさになる石をはじめ、多くの石を使用し、南西隅から谷川に向かって作られた排水施設につながり、地下水を除去していることが判明しました。また、この高殿の南西からは、先号で報告しました県内では初めての「砂鉄洗い場」が検出されました。



大成山たたらの高殿地下構造（南西から）

北方地藏遺跡は、1昨年まで行っていた県道岡山吉井線より東の地区で旭川までの調査を行っています。西川の東は中世の遺構は残っていましたが、それ以前は旭川の河道敷きだったようです。西川の西側は中世の下層に古代の遺構が残る面、さらにその西には弥生時代の微高地が残っているようです。来年度も引き続き調査を行う予定です。

今年度整理を行った遺跡については、来年度刊行する予定です。（伊藤 晃）

調査第三課

本年度の事業

第一係

・ 苫田ダム (発掘調査) 通年

第二係

・ 美作岡山道路 (発掘調査) 通年
 ・ 県立津山高校 (発掘調査) 4月～5月
 (報告書作成) 6月～11月
 (補足調査) 11月
 (報告書刊行) 3月

・ 国道179号線 (発掘調査) 6月～12月
 ・ 国道179号線道の駅 (発掘調査) 10月～11月
 ・ 県道西一宮中北上線 (発掘調査) 11月～12月
 ・ 県道西大寺備前線 (発掘調査) 1月～3月

第三係

・ 県道箕島高松線 (発掘調査) 通年
 ・ 国立岡山病院 (報告書作成) 4月～11月
 (発掘調査) 12月～3月
 ・ 県道津山智頭八東線 (発掘調査) 4月～6月
 (報告書作成) 11月～3月
 (報告書刊行) 3月
 ・ 県道矢掛寄島線 (発掘調査) 7月～9月
 (報告書作成) 9月～11月
 (報告書刊行) 3月

発掘調査概要

苫田ダムの調査は、昨年度から引き続いて奥津町の城峪城跡と久田原遺跡、あらたに岡遺跡・峪畑遺跡・ナル林遺跡・比丘尼ヶ城などを実施しました。とくに城峪城跡は、犬走りや堀切、主郭などの遺構配置の全貌を明らかにすることができました。さらに、丘陵鞍部から奈良時代と思われる焼成炉(通称八目鰻)も見つかり、昨年度調査の製鉄炉との関連も注目されます。また、久田原遺跡では古墳面の下層の弥生時代中期前半の住居址や、縄文時代後・晩期の土器の存在も明らかになりました。

美作岡山道路の調査は、熊山町可真下・稗田の前内池墳墓群・前内池1～6号墳(5号墳は消滅)と大畑城の確認、吉井町の立道古墳の確認などを実施しました。(本紙別項参照)

県立津山高校の調査は、十六夜山遺跡の一部の新校舎の北東部を実施し、弥生時代の竪穴住

居や土壙、近世の屋敷割りの柱穴列や溝、さらに井戸などが検出されました。

国道179号線は鏡野町の六番丁場・九番丁場遺跡の調査を実施し、弥生時代後期の竪穴住居や土壙などが検出され、土壙の一つからは一升三合ほどの炭化米が出土しています。

国道179号線道の駅の調査は、奥津町奥津の長通り遺跡などを実施し、弥生時代の柱穴や土壙などが検出されました。

県道西一宮中北上線の調査は、鏡野町の三番丁場遺跡の一部を実施し、弥生時代の土壙・溝、近世の井戸・水路などを検出しました。

県道西大寺備前線の調査は、備前市島田の船山遺跡の一部を実施し、弥生時代中期の土壙・溝などが検出されました。

県道箕島高松線の調査は、倉敷市下庄・上東の下庄・上東遺跡の一部を行い、弥生時代後期を中心とする竪穴住居・溝・土壙・井戸・土手状遺構などと、古墳時代の貝塚などを検出しました。また、土手状遺構の法裾から河道にかけて、完形に近い土器が700個体以上も出土し、なかには絵画文土器や弧帯文土器、朝鮮系土器などが含まれ、注目されます。(本紙別項参照)

国立岡山病院の調査は、建物の設計変更に伴い岡山市田益の田益田中遺跡を実施しました。遺構は調査地区全体に、おもに弥生時代の溝や小土壙が多数見つかり、昨年調査と同様、その約50cm下面には縄文時代後・晩期の河道が認められています。河道の遺物は比較的少量でしたが、遺構的には弥生、縄文後・晩期ともに隣接調査遺構との繋がりが捉えられるなどの成果が得られました。

県道津山智頭八東線の調査は、加茂町の室尾石生谷口古墳などを実施し、近隣では万燈山古墳に次ぐ規模の横穴式石室をもつ6世紀後半の古墳であることが判明しました。

県道矢掛寄島線の調査は、鴨方町の段林古墳・段林遺跡を実施し、6世紀末の小横穴式石室をもつ古墳と、その下部の弥生時代の竪穴住居などの存在を明らかにできました。

(柳瀬昭彦)

岡山市・津島遺跡の確認調査

岡山県総合グラウンド（岡山市いずみ町）の地下には、弥生時代前期から近世にかけての2000年以上におよぶ人々の生活の跡が眠っています。この一帯は津島遺跡と呼ばれ、一部は国の史跡にも指定されています。今回の調査は、地下の遺構・遺物の分布状況を調べるため、グラウンドの北西部にあたる陸上競技場の周囲に10カ所のトレンチ（試し掘りの溝）を設けて、平成10年1月から3月にかけて行いました。

調査の結果、弥生時代前期（約2300年前）の水田や古墳時代中期（約1500年前）の竪穴住居などの遺構が発見されました。弥生前期の水田は8カ所のトレンチで確認され、この時期には調査地のほぼ全域が水田であったことが判明しました。水田に伴う畦や用排水路とみられる溝も検出されています。古墳中期の住居は、壁際

に作りつけのカマドをもつもので、埋土の中からは土器のほかに滑石製の勾玉も2点出土しました。これ以降も、近代に至るまで耕地や居住地として連続と利用されていたことが、遺構・遺物からうかがわれます。（岡本泰典）



弥生時代後期の土器だまり

普及啓発事業から

1. 平成9年度埋蔵文化財担当職員研修会

この研修会は、県および県内市町村の埋蔵文化財保護行政を担当している職員を対象に行われており、今年度は平成10年2月13日（金）に当センターで開催しました。

講師には、総社市教育委員会参事の村上幸雄氏と九州テクノロジーリサーチ技術顧問の大澤正己氏の両名をお迎えし、43市町村、計85名という非常に多くの参加を得ました。

村上氏には、「鬼ノ城の発掘調査について」と題して、平成6年度から史跡整備に伴う発掘調

査を実施している鬼ノ城の調査成果について、スライドを用いながら紹介していただきました。これまで例のない角楼跡の発見や古代山城では全国でも初めて東西南北の城門が確認されるなど注目される成果が多く、また調査段階での問題や今後の課題など有益なものでした。

大澤氏には、「吉備の鉄」と題して、ご自身がこれまで全国の製鉄関連遺物を分析・研究された成果をふまえながら、弥生時代から古墳時代への鉄の様相を明らかにし、吉備の製鉄技術について評価を述べていただきました。また、鍛冶の過程で産出される粒状滓や鍛造剥片など微小な遺物も重要な情報を有しており、調査現場で問題意識を持って取り扱う必要があることを指摘していただきました。

2. 現地説明会

当センターでは、今年度3回の現地説明会を開催しました。このうち10月以降に開催されたものは11月22日（土）の久田原遺跡（苫田郡奥津町）の現地説明会で、建設省苫田ダム工事事務局と共催で実施しました。



村上幸雄氏の講演



大澤正己氏の講演

岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧表（平成9年度）

遺跡名	所在地	調査原因	種別	遺跡の内容	調査期間	調査面積
1 津島遺跡	岡山市いづみ町	遺跡範囲確認	確認	弥生前期水田、古墳後期の集落	1.19 ~ 3.23	600㎡
2 藤原遺跡	岡山市藤原	岡山陸運支局車検場コースゲート設置	全面	弥生～中世の水田	1.19 ~ 1.22	23㎡
3 船山遺跡	備前市島田	県道西大寺備前線交差点改良	確認	弥生時代の集落	6.11 ~ 6.12	32㎡
4 阿知境遺跡ほか	吉備郡真備町石井・箭田	県営圃場整備	全面	弥生～近世の集落	4.8 ~ 9.29	4,000㎡
5 清水谷遺跡ほか	小田郡矢野町里山田	県営圃場整備	確認	縄文～近世の集落	11.4 ~ 1.29	410㎡
6 源大寺遺跡	英田郡美作町湯郷	国道374号線改良	確認	弥生時代の低湿地、河道	11.4 ~ 11.11	334㎡
7 大間遺跡ほか	苫田郡鏡野町布原	一般県道西一宮中北上線改良	確認	弥生時代の集落	9.10 ~ 9.11	660㎡
8 長通り遺跡	苫田郡奥津町奥津	国道179号簡易パーキング整備ほか	確認	弥生～中世の集落	7.7 ~ 8.1	974㎡
⑨ 西敷蜂遺跡ほか	吉備郡真備町大字市場	真備町市場工業団地造成	確認	弥生時代の集落	8.6 ~ 8.8	670㎡
⑩ 西村古墳群	勝田郡勝北町西村	町道西村西上線拡幅	全面	竪穴式石室と横穴式石室の古墳	8.1 ~ 10.9	227㎡
⑪ 真加部条里	勝田郡勝田町真加部	勝田町屋内ゲートボール場建設	確認	縄文時代の土壌	10.20 ~ 10.24	223㎡
12 百間川米田遺跡	岡山市米田	旭川放水路（百間川）改修	全面	古代～中世の護岸、橋脚	4.1 ~ 3.31	3,119㎡
13 北方藪ノ内遺跡ほか	岡山市中井町	都市計画道路万成国富線建設	全面	中世の集落、古代の河道	7.7 ~ 3.24	2,952㎡
14 津寺遺跡	岡山市津寺	立田排水機場関連送水管建設	全面	弥生～古代の集落	12.10 ~ 1.9	110㎡
15 田益田中遺跡	岡山市田益	笹ヶ瀬川調節池建設	全面	縄文の河道、弥生～古墳の集落	4.1 ~ 6.30	1,585㎡
16 金井戸・見延遺跡	総社市井出	国道429号線改良	全面	縄文～近世の集落	4.4 ~ 6.27	872㎡
17 大成山たたら遺跡群	阿哲郡神郷町油野	三室川ダム建設	全面	中世～近代の製鉄	4.1 ~ 12.26	7,474㎡
18 田益田中遺跡	岡山市田益	国立岡山病院建設	全面	縄文時代の河道、中世の集落	12.1 ~ 3.31	2,486㎡
19 上東遺跡・下庄遺跡	倉敷市上東ほか	県道筑島高松線建設	全面	弥生～中世の集落、土手状遺構	4.1 ~ 3.31	12,673㎡
20 段林古墳ほか	浅口郡鳴方町大字地頭上	県道矢野寄島線改良	全面	弥生の集落、横穴式石室墳	7.8 ~ 9.11	700㎡
21 船山遺跡	備前市島田	県道西大寺備前線交差点改良	全面	弥生時代の集落	1.9 ~ 3.23	530㎡
22 前内池墳墓群ほか	赤磐郡熊山町可真下ほか	美作岡山道路建設	全面	弥生の集落・墳墓群、古墳群	4.1 ~ 3.31	8,107㎡
23 栄光寺跡ほか	赤磐郡吉井町光木	美作岡山道路建設	確認	古墳、中・近世の集落、寺院	6.23 ~ 8.28	575㎡
24 大畑城跡	赤磐郡熊山町佐古	美作岡山道路建設	確認	弥生時代の集落	10.6 ~ 3.18	190㎡
25 十六夜山遺跡	津山市椿高下	県立津山高枝校舎改築	全面	弥生時代の集落、武家屋敷	4.1 ~ 5.30	710㎡
26 十六夜山遺跡	津山市椿高下	県立津山高枝校舎改築	全面	弥生時代の集落、武家屋敷	11.11 ~ 11.19	50㎡
27 九番丁場遺跡ほか	苫田郡鏡野町布原ほか	国道179号線改良	全面	縄文～近世の集落	6.2 ~ 12.24	2,848㎡
28 三番丁場遺跡	苫田郡鏡野町布原	一般県道西一宮中北上線改築	全面	弥生時代の集落	10.30 ~ 12.17	512㎡
29 室尾石生谷口古墳	苫田郡加茂町大字青柳	主要地方道津山智頭八束線改良	全面	横穴式石室を持つ古墳	4.8 ~ 6.30	400㎡
30 長通り遺跡	苫田郡奥津町奥津	国道179号簡易パーキング整備ほか	全面	古墳～近世の集落	10.13 ~ 11.19	1,006㎡
31 城階城跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	全面	古墳～古代の製鉄、中世の城郭	4.4 ~ 9.19	4,000㎡
32 岡遺跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	全面	弥生時代の集落	4.18 ~ 6.27	720㎡
33 船瀬遺跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	全面	弥生の集落、古代～中世の製鉄	5.28 ~ 7.18	560㎡
34 久田原遺跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	全面	縄文～中世の集落、古墳	9.1 ~ 3.23	6,310㎡
35 比丘尼ヶ城跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設に伴う湖岸道路建設等	全面	中世の城郭	8.25 ~ 1.12	1,470㎡
36 河内城跡	苫田郡奥津町河内	苫田ダム建設に伴う湖岸道路建設等	全面	中世の城郭	4.4 ~ 4.24	550㎡
37 ナル林遺跡	苫田郡奥津町黒木	苫田ダム建設に伴う湖岸道路建設	全面	弥生～古墳の集落	6.12 ~ 8.29	1,150㎡
38 北条高下遺跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	確認	中世の墳墓	2.10 ~ 2.13	190㎡
39 久田瀬ノ内遺跡	苫田郡奥津町久田下原	苫田ダム建設	確認	縄文～中世の集落	12.22 ~ 3.19	490㎡

○数字は市町村指導の発掘調査（調査主体は以下のとおり）

⑨真備町教育委員会、⑩勝北町教育委員会、⑪勝田町教育委員会



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136

岡山市西花尻1325-3

電話 (086) 293-3211

●交通案内

- ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・JR岡山駅下車岡電バス岡山駅前より
神道山行終点下車徒歩5分